みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

Bulletin of the National Museum of Ethnology Vol. 14No. 3; Cover, Contents,and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009211

1989——14巻3号

国立民族学博物館研究報告

●

中米諸語の数体系————八杉佳穂

アムール川下流域諸民族の社会・文化における清朝支配の影響について————佐々木史郎

国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

14巻 3号　　1989年

目　次

中米諸語の数体系 ……八杉佳穂……519

アムール川下流域諸民族の社会・文化における
清朝支配の影響について ……佐々木史郎……671

彙　　報 ……773

国立民族学博物館研究報告寄稿要項 ……779

国立民族学博物館研究報告執筆要領 ……780

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 14 No. 3 **1989**

YASUGI, Yoshiho — Numeral Systems of Middle American Indian Languages 519

SASAKI, Shiro — Society and Culture of Peoples of the Lower Amur under the Rule of the Qing Dynasty 671

彙　報 (平成元年7月～平成元年9月)

人事異動

(教育職)　　(採用)

7月1日　第四研究部助手　佐藤　浩司

シンポジウム

◎「西アフリカ・フルベ社会の実像と虚像―多様性のなかのアイデンティティー」

期間　平成元年9月3日(日)～10日(日)

場所　国立民族学博物館　求是荘(大津市)

摘要　牧畜民として知られているフルベ族は，広範囲にわたる移住の結果，西は大西洋岸から東はエチオピアの国境地帯までのサハラ南縁にすんでいる。結果的に，今日彼らはサハラ以南のどの民族集団より，広範囲に分布することになった。このようななかで，彼らは共通の「フルベ族らしさ」をもつものであろうか。また，「フルベ族らしさ」をどのように維持しているのであろうか。今回のシンポジウムでは，つぎの視点から，フルベ族の多様性と共通性の問題を討論する。

(1)多数民族としてのフルベ族／少数民族としてのフルベ族，(2)生活様式の差と「フルベ族らしさ」，(3)イスラムと「フルベらしさ(プラーク)」，(4)方言間の差異

組織委員会

梅棹　忠夫　国立民族学博物館長
(委員長)

竹村　卓二　国立民族学博物館第一研究部長

佐々木高明　国立民族学博物館第二研究部長

杉本　尚次　国立民族学博物館第三研究部長

友枝　啓泰　国立民族学博物館第四研究部長

藤井　知昭　国立民族学博物館第五研究部長

田中　武雄　国立民族学博物館管理部長

実行委員会

江口　一久　国立民族学博物館第三研究部助教授
(委員長)

櫻井　哲男　国立民族学博物館第五研究部助教授
(副委員長)

永ノ尾信悟　国立民族学博物館第三研究部助教授

小川　　了　国立民族学博物館第三研究部助教授

石森　秀三　国立民族学博物館第四研究部助教授

佐々木史郎　国立民族学博物館第一研究部助手

庄司　博史　国立民族学博物館第三研究部助手

朝倉　敏夫　国立民族学博物館第四研究部助手

山本　泰則　国立民族学博物館第五研究部助手

奥出　栄治　国立民族学博物館研究協力課長

湯浅　叡子　財団法人千里文化財団専務理事

宇治日出二郎　財団法人千里文化財団事業部長

参加者

国　外

Victor Azarya　ヘブライ大学

Charles Frantz　ニューヨーク州立大学

Ibrahim Mukoshy　ソコト大学

Christiane Seydou　フランス国立科学研究機構

Catherine VerEecke　オハイオ大学アフリカ研究所

G.V. Zubko　モスクワ大学

国　内

江口　一久　国立民族学博物館助教授

小川　　了　国立民族学博物館助教授

嶋田　義仁　静岡大学助教授

富川　盛道　東京外国語大学名誉教授

日野　舜也　東京外国語大学教授

宮本　律子　聖霊女子短期大学講師

日　程

9月3日(日)(千里阪急ホテル)

17:00　登録

9月4日(月)(国立民族学博物館)

10:00　開会式　司会：竹村　卓二
挨拶：梅棹　忠夫

10:10　参加者紹介　司会：江口　一久
第1セッション：多数民族としてのフルベ族としてのフルベ族／少数民族としてのフルベ族

10:45　報告1　Charles Frantz
座長：日野　舜也
Are the Mbororo Boring, or the Ful'be Finished?

11:45　討　論

13:30　報告2　日野　舜也
座長：C. Frantz
Ful'be People in the African Urban Society: — A Comparative Study of Cameroun and The Sudan—

14:30　討　論
15:30　報告3　小川　了
座長：C. Frantz
Ethnic Identity and Social Interaction
16:30　討論
9月5日（火）（国立民族学博物館）
第2セッション：生活様式の差と「フルベ族らしさ」
9:30　報告1　富川　盛道
座長：嶋田　義仁
Are the Mbororo Outsiders or Insiders in the Ful'be Society?
10:30　討　論
11:00　館内見学
13:30　報告2　嶋田　義仁
座長：富川　盛道
Jihad as Ful'be Dialectical Movement and Formation of Islamic Identity among the Ful'be
14:30　討　論
15:30　報告3　Victor Azarya
座長：富川　盛道
Sedentarization and Ethnic Identity among the Ful'be: A Comparative View
16:30　討　論
9月6日（水）（国立民族学博物館）
第3セッション：イスラムと「フルベらしさ（プラーク）」
10:00　報告1　Christiane Seydou
座長：江口　一久
Unite et diversite du monde peul a travers sa production litteraire: quelques apercus
11:00　討　論
13:00　報告2　江口　一久
座長：C. Seydou
"Ful'beliness" in Ful'be Oral Literature in Cameroon
14:00　討　論
9月7日（木）京都観光
9月8日（金）（求是荘）
10:00　報告3　Catherine VerEecke
座長：C. Seydou
National Ful'be Identity in Nigeria? The Effects of Some Recent Political and Economic Activities
11:00　討　論
セッション4：方言間の差異
13:00　報告1　G.V. Zubko
座長：I. Mukoshy
Ethnic and Cultural Characteristics of the Ful'be
14:00　討　論
14:30　休　憩
15:00　報告2　Ibrahim Mukoshy
座長：G.V. Zubko
Language and Culture of the Ful'be in Nigeria
16:00　討　論
9月9日（土）（求是荘）
報告3　宮本　律子
座長：G.V. Zubko
10:00　A Diachronic and Synchronic Study of *E* and *'Don*
11:00　討　論
13:00　総合討論
座長：江口　一久
9月10日（日）（ホテルギンモンド）
10:00　ワークショップ
11:30　解　散

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
林　行夫	助手（第四研究部）	1. 7. 6	1. 8.29	タイ
守屋　毅	助教授（第一研究部）	1. 7. 9	1. 7.15	アメリカ合衆国
長野　泰彦	助教授（第一研究部）	1. 7.13	1. 8.20	インド，ネパール
和田　正平	教授（第三研究部）	1. 7.22	1. 9.16	ケニア，タンザニア，ザンビア
久保　正敏	助手（第五研究部）	1. 7.22	1. 9. 1	オーストラリア
藤井　知昭	教授（第五研究部）	1. 7.27	1. 8. 4	仏領ポリネシア
石毛　直道	教授（第一研究部）	1. 7.31	1. 8. 2	大韓民国
須藤　健一	助教授（第一研究部）	1. 8. 4	2. 5.31	オーストラリア，フィジー
石森　秀三	助教授（第四研究部）	1. 8.17	1. 9.13	ポーランド，オーストラリア，フランス，連合王国
ケネス・ラドル	教授（第五研究部）	1. 8.22	1. 9.24	マラウイ，フィリピン
藤井　知昭	教授（第五研究部）	1. 8.29	1. 9. 5	アメリカ合衆国
永ノ尾信悟	助教授（第三研究部）	1. 8.30	1.11.14	インド
佐藤　浩司	助手（第四研究部）	1. 8.31	1. 9.14	インドネシア
崎山　理	教授（第五研究部）	1. 8.31	1. 9.14	インドネシア

杉島　敬志	助　手（第二研究部）	1. 8.31	1. 9.14	インドネシア
吉田　集而	助教授（第二研究部）	1. 9. 1	1. 9. 9	インドネシア
大塚　和夫	助　手（第三研究部）	1. 9. 7	2. 1.20	モロッコ，エジプト，スーダン，連合王国
福井　勝義	助教授（第三研究部）	1. 9.11	1.11.28	エチオピア，スーダン，連合王国
守屋　　毅	助教授（第一研究部）	1. 9.19	1.12.10	アメリカ合衆国
石毛　直道	教　授（第一研究部）	1. 9.20	1. 9.28	台湾

来館者抄

7月4日　黄　恵　焜（中国，雲南民族学院副院長）
王　叔　武（中国，雲南省民族研究所前所長）
王　　均（中国，同所研究室主任）
劉　光　智（中国，同所研究室主任）
劉　　剛（中国，同所助理研究員）

7月6日　曲　翰　章（中国，北京社会科学院研究員）

7月8日　郝　維　民（中国，内蒙古大学内蒙古近現代史研究所長）
特　木　額（中国，内蒙古自治区檔案局長）
四　　海（中国，内蒙古自治区檔案館長）

7月8日　Epifanio SALCEDO（パラグアイ，パラグアイ中央銀行直轄畜産基金総裁，国立アスンシオン大学経済行政学部長）夫妻

7月11日　エドワード・E・ルセンテ（アメリカ合衆国，IBM副社長，IBMワールド・トレード・アジア太平洋グループ代表取締役）

7月14日　矢作尚也（文化庁文化財保護部文化財調査官）

7月15日　VILLAREAT, Arturo Infante（コロンビア，ロス・アンデス大学長）
JICA 国際花と緑の博覧会セミナー開発途上国集団技術研修コース一行
カラロ（ブラジル，エクターコンサルタント㈱）
マツナガ（同，サンパウロ州農務局，技術アドバイザー）
デルフィン（同，ブローメモリア国立財団）
サンチアゴ（エクアドル，キト市造園局長）
ダドロス（エジプト，農業農地改良省，植財部長）
サラ（同，農業省，国立植物園技官）
ラーマン（インド，都市開発省，部長）
ダッタ（同，公共事業省事業局，園芸部長）
ソエロジョ（インドネシア，農業省，園芸局長）
ブルノモハティー（同，人口環境省，造園担当官）
ゾルフィガリ（イラン，農業省，国際問題担当専門官）
ダヒルアシャラフイ（同，農業省，種苗改良センター上級専門官）
ウェツェル（メキシコ）
ゲジャル（同）
ミモウン（モロッコ，外務協力省，国際協力総局対アジア諸国二国間経済協力担当）
ヴィラス（ネパール，国立植物園，技師長）
シュレシハ（同，国立植物園，副技師長）
ラフィ（パキスタン，首都開発庁，長官）
シャディール（同，首都開発庁，公園緑地技師長）
サランヤ（タイ，農業協同組合省農業局，課長）
プラシト（同，内務省地方自治局，補助調整課長）
ブーンメ（同，国立園芸研究所，技官）
ゴーカー（トルコ，外務省文化局，次長）
オスタン（同，アンカラ大学農学部造園学科，教授）

7月18日　IBRAHIM, Abdullani All（スーダン，ハルツーム大学アフリカ・アジア研究所講師）

7月21日　姜　信　均（韓国，漢陽大学校民族研究所長）
林　在　海（韓国，安東大学民族学教授）
仁木賢司（コロンビア大学C.Vスター東亜図書館日図書収集管理責任者）
東ケ崎民代（国際文化会館図書室長）

7月23日　ABHAKARA na AYUDHYA（タイ，前摂政宮妃殿下）
SVASTI-XUTO 夫妻
IHSANGKUM naAYUDHY-A, VADHANALIKITH 夫妻

7月25日　李　文　能（中華民国，台湾高雄文化中心所長）

7月31日　ジョン・モック（アメリカ合衆国，ミシガン州立大学連合日本センター所長）

7月31日　大阪府外国青年拓へい事業外国青年一行

8月1日　下田久則（国立国会図書館副館長）

8月3日　渡辺（佐野美術館副館長）

8月5日　ミネアポリス市少年サッカーチーム一行

8月7日　LOGAN, Samuel（アメリカ合衆国，ミシガン・クロニウル社営業部長）
TROTTER, Eunice（アメリカ合衆国，インディアナポリス・レコーダー社発行人兼編集長）
CERTJEGERDES, Carol c.（アメリカ合衆国，コロンバス・タイムズ紙ニュース編集社，広告マネージャー）

8月8日　日本学生会議一行

8月13日　韓国文教部派遣大学生一行

8月15日　集団研修・情報処理要員養成（データベースシステム設計A）コース研修員一行
Ines Yolanda Ramirez（コロンビア，ECOPETROL—石油研究所技術情報部，システム・プロフェッショナル）
Ahmed EL-Sayed Abdel-Moneim（エジプト，内閣官房・情報管理センター情報管理部，チームリーダー）
Sabreen Adb El-Fattah Mohammed Moussa（同，人事院中央情報局電算課，システム・アナリスト）
Andi Djalal Latief（インドネシア，科学技術応用評価庁技術部情報処理班長）
PARSONO（同，工業省情報処理センター情報部，プログラマー）
Mahdi Abdul Sahib Hamed Al-Alaly（イラク，イラク原子力委員会コンピュータセンター，プログラマー）
Ihad Moufeed Abd-Alrahim（ジョルダン，計画省電算部国家情報センターシステム・アナリスト/プログラマー）
Chang, Young-Nam（韓国，内務部治安本部電算センター企画開発課，システム・アナリスト）
Mohd Zaki Bin Haji Kassim（マレーシア，都市計画庁官房室電算課，シニア・プログラマー）
Ali Hamidou（ニジェール，電力公社情報部開発研修課，技師）
Jirapatra Chewpreechar（タイ，総理府予算局人事部システム・アナリスト）
Urapon Sukatat（同，大蔵省コンピュータ・センター，情報システム課，システム・アナリスト）

8月20日　フランス・ヴァルドワーズ県ベルサン音楽学校合唱団一行

8月22日　井上昭次（奈良県立博物館次長）北海道開拓記念館常設展示改訂専門委員会
今井信一（札幌市教育委員会学校教育部長）
魚住　悟（北海道大学理学部教授）
中田幹雄（北海道開拓記念館展示課長）
佐藤雅也（仙台市歴史民俗資料館）

8月28日　韓国文化芸術振興院職員一行

8月29日　果　洪　昇（中国，中国社会科学院民族研究所民族理論研究室副主任）
金　淳　培（中国，同研究所民族言語研究室秘書）
BROWN, Julian（カナダ，クイーンズ大学教授）

9月8日　NARTSUPHA, Chatthip（タイ，チュラロンコーン大学経済学部助教授）

9月20日　エリック・コーエン（イスラエル，ヘブライ大学社会科学部長）

9月14日　国際協力事業団集団研修・情報処理要員養成（システムエンジニア・A）コース研修員一行
顔　世　祥（中国，安徽省科学技術委員会・ソフトウエア科学管理課・課長代理）
Gamal Sayed Ahmed Hanafy（エジプト，総務庁・中央情報局・コンピュータ部，電子/コンピュータ技師）
R. Santoso（インドネシア，科学技術応用評価庁・技術部，インフォメーションネットワークシステム技師）
具　敬　玉（大韓民国，総務処・国立コンピュータセンター・分析/教育課・システムアナリスト/講師）
Wan Yusoff Bin Wan Yaacob（マレーシア，教育省・コンピュータサービス部・コンピュータセンター・運用管理官）
Edgardo S. J. Felix（フィリピン，国家経済企画庁・経営情報局・システム開発/プログラミング課・経済開発専門官）
Arnel U. Ruzon（同，運輸通信省・経営情報部・コンピュータシステム課・システムアナリスト）
Hung Soo Pheng（シンガポール，日・シ　ソフトウェア技術研修センター講師）
Tan Sock Yan（同，日・シソフトウェア技術研修センター講師）
Kanokporn Chotipal（タイ，総理府・投資委員会・コンピュータ課・職員）
Cigdem Feride Harrison（トルコ，総理府・技術省・科学/技術研究委員会・技術情報センター・ソフトウエアマネージャー）
Ozlem Tinaz（同，総理府・技術省・科学/技術研究委員会・科学/技術ドキュメンテーションセンター情報専門官補佐）
大菅則夫（富山県立近代美術館総務課主任）
岩本三好（同館総務課技術員）

9月19日　RANJEVA, Raymond（マダガスカル，アンタナナリポ大学長）夫妻

9月20日　エリック・コーエン（イスラエル，ヘブライ大学社会科学部長）

9月22日　国際協力事業団情報処理要員養成（オンラインシステム設計）コース科研修一行
Luis Felipe de Oliveira（ブラジル，連邦鉄道会社，情報部支援課，サポートエンジニア）
Oswaldo Henrique Bastos Salles（同，ブラジリア連邦区消防隊，コンピュータアドバイザー課，コンピュータアドバイザー）
Tomotar Edward Tampubolon（インドネシア，中央統計局，情報処理課，プログラマ）
Walman Pasaribu（同，工業省，秘書課，情報処理・分析センター，データ収集課，講師/プログラマー）
Marcia Heather Elaine Thompson（ジャマイカ，国立コンピュータセンター，システム開発課，プログラマーアナリスト）
Nurul Ashikin（マレーシア，内務省，登録部，コンピュータ・マイクロフィルム課，システムアナリスト/プロジェクト主任）
Jaime Rogelio Blanco Arellano（ペルー，運輸・通信省通信総局，電気通信登録課，主任技師）

Silvia Rosa Castro Burgos（国立通信研修調査研究所，研修部，デジタル通信課，システム・エンジニア室主任）
Tiwa Kodchasila（タイ，総理府・内閣事務局，情報センター室，コンピュータシステム課システムプログラマー）

9月25日　国際協力事業団海外技術研修員一行
（野菜採種コース研修員）
Rahman, Molla Safiar（バングラデシュ，農業省農業普及局ラマットプール園芸場，次長）
Sanchez Rivera, Ramiro Gonzalo（ボリビア，ガブリエル・レネ・モレノ大学，園芸研究計画監理官）
Andrade, Rosa Neli Bento De（ブラジル，リオ・グランデ・ド・スール州農業局野菜種子品質管理課，研究員）
魯　重　格（中国，吉林農業大学特産園芸系，講師）
王　洪　昌（同，河北農業科学研究院野菜研究所，研究員）
Ruiz Estrada, Luis Angel Arturo（グアテマラ・農牧食糧省中央グアテマラ野菜プロジェクト，指導官）
Washah, Saleh Abdel-Hadi（ジョルダン，農業省農業研究・技術移転センター野菜研究室，研究員）
Medrano Zavala, Julio Cesar（ニカラグア，農業省セバコバレー試験場，野菜品種改良技官）
Nzabanita, Jean--Baptiste（ルワンダ，農林省カラゴギシエ野菜生産プロジェクト，野菜生産プロジェクト，野菜種子生産技官）
Osman, Abdelhai Noreldein（スーダン，農業天然資源省種子管理局シナール採種農場，野菜種子生産技官）
Khanobdee, Januluk（タイ，教育省ランパン農業研究研修センター，教官）
W.P., R.A. Weerawardhana（スリランカ，マハヴェリ開発・土地開発省マハヴェリ経済局，農業技官）
（野菜生産コース研修員）
Andre Kich（ブラジル，南リオグランデ州テウトニア普及事務所，所長）
Korda Edward Sackeyteh（ガーナ，農業省農業業者普及課，技官補）
Md. Arshad B.AB. Ghani（マレーシア，トレンガヌ州農業部，技官）
Msowoya Rowland M.K.（マラウイ，農業省サリア農業開発室，園芸普及投官）
Remos Livaie（ミクロネシア，農業省農業部，農業普及官）
J. Roberto Ramirez Otarola（ペルー，国立モリナ農業大学，研究員及び普及員）
Nida M. Torralba（フィリピン，農業省第一地方農政局，農業技官）
Edgar Amarilla（パラグアイ，農牧省農業研究所園芸部，野菜研究員）
Shadia Mohed. Bashir（スーダン，農業省園芸課，園芸技官）
Mohamad Marwan Al-Kateb（シリア，農業農地改革省，農業計画課長）
Roland Tutor Alaan（フィリピン，ボホール農業振興センター，研究員）

9月28日　インドネシア大学文学部東アジア研究科日本プログラム SURAJAYA 団長一行
ソ連サハリン州博物館関係者一行
ユーリー　N，ミシューター（サハリン州政府文化局長）
ブラジスラブ　M，ラティシェフ（サハリン州博物館長）
オリガ　A，シュービーナ（サハリン州博物館研究員）
レヴェジワ　T，レオニドブナ（ノーグリキ文化会館長）

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は，民族学（文化人類学）に関する論文，資料・研究ノート，調査研究活動報告等を掲載・発表することにより，民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は，次のとおりとする。
   (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織，運営に関与する者
   (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
   (3) その他本館において適当と認めた者
3. 原稿を寄稿する場合は，論文，資料・研究ノート，調査研究活動報告等のうち，いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお，この区分についての最終的な調整は，国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は，原則として論文及び資料・研究ノートを1段組，その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は，日本語，英語，フランス語，スペイン語，ロシア語，中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし，その他の言語を用いる場合は，編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字，記号，印刷方法等が必要な場合は，編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で，日本語を使用する場合は，原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし，その他の言語による論文の場合は，編集委員会に相談するものとする。なお，寄稿する原稿については，執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は，原則として制限しない。ただし，編集する場合は編集委員会の判断により，紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は，必ず清書（欧文の場合はタイプ）し，原稿の写し1部を添付するものとする。なお，図，表のスミ入れ，レタリングは，編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は，審査委員会において審査のうえ，採否を決定する。なお，原稿は，採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い，掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては，別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は，次のとおりとする。

〒565　大阪府吹田市千里　万博公園10-1
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は，200字詰原稿用紙を使用し，横書きとする。
2. 原稿は，図，表を除き，原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は，原則として当用漢字，現代かなづかいを用いる。
4. 句読点，括弧，各種記号等は，原則として原稿用紙のマス目１字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号，月日及びその他の数字は，原則としてアラビア数字を用いる。なお，年号は，原則として西暦とする。
6. 図及び表は，一図，一表ごとに別紙に書き，本文とは別に一括して添付するものとする。なお，図，表ごとに通し番号（「図１」，「表１」等の要領により記入），図，表名及び説明並びに出典等を記し，本文原稿の欄外には，それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は，写りの明瞭なもので，手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り，図及び表の扱いに準じて通し番号，説明を付けたうえ，そう入箇所を指定するものとする。ただし，カラー写真は，原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は，カギ括弧を付け，著者名，文献刊行年次，引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

   [柳田 1942: 67–69]

   [Leach 1961: 123]

   [柳田 1942: 67–69, 1944: 20–22; Leach 1961: 123]

   ただし，同年次刊行物の場合は，アルファベット順により，下記のように記載するものとする。

   [柳田 1942a: 20–22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は，一つ一つ別紙に記し，通し番号を付ける。なお，本文中に脚注をそう入する箇所には，脚注の当該番号を記入し，別紙の脚注には，本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は，すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

    (1) 文献の配列は，著者名のアルファベット順とすること。

    (2) 文献の記載は，著者名，年号，論題（タイトル），誌名，巻，号，出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は，イタリック体にするため，原稿には下線を引くこと。また，ローマ字人名は，スモール・キャピタルとするため，二重下線を引き，日本文の場合は，論題にカギ括弧，雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は，原則としてアラビア数字を用いること。

    (例)

    論文の場合 (1)

    石田英一郎

    1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311–330。

    Bohannan, P.

    1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357–372.

    論文の場合 (2)

    杉浦 健一

    1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店，pp. 117–143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23–63.

単行本の場合

泉　靖一

1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』 堀一郎訳　冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告　14巻3号

〔監　　修〕
梅　棹　忠　夫
〔編集委員長〕
友　枝　啓　泰
〔編集委員〕
片　倉　素　子
ケネス・ラドル
崎　山　　理
周　　達　生
田　邊　繁　治
垂　水　　稔
長　野　泰　彦
林　　行　夫
宮　本　　勝
八　杉　佳　穂
山　本　紀　夫
和　田　正　平

平成2年2月28日　発行　非売品

国立民族学博物館研究報告　14巻3号

編集・発行　国立民族学博物館
〒565　吹田市千里万博公園10-1
TEL 06(876)2151(代表)

印　　刷　中西印刷株式会社
〒602　京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075(441)3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.14 no.3
1989

YASUGI, Yoshiho — Numeral Systems of Middle American Indian Languages

SASAKI, Shiro — Society and Culture of Peoples of the Lower Amur under the Rule of the Qing Dynasty

ISSN 0385-180X

National Museum of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151